

コープで
広がる、
つながる

「未来へつなごう」100年後の地球のために EV（電気）トラック実験導入

とちぎコープは、コープデリグループの一員として2050年度CO₂排出量実質ゼロを目指し、さまざまな取り組みを進めています。その一環としてEVトラックを1台導入し、コープデリ芳賀センターで配達の実証実験を開始しました。



生協の宅配事業では多くのトラックや営業車を運行しており、CO₂排出量の低減が大きな課題です。日本生協連が進める「車両共同調達事業」において、EVトラックの実験導入を行うことになり、とちぎコープも協力生協として参加しています。全国で7台の導入が予定され、そのうちの1台が、とちぎコープの「いすゞエルフEV」です。実証実験では、実際の配達の中で、走行距離や電気の消費量、バッテリーの消耗具合などのデータを取得し検証していきます。そのデータは、日本生協連を通じてEVトラック導入を検討している多くの生協に提供されます。

芳賀センターでは、EV車ならではの操作に慣れるため、1月の納車以降テスト走行をくり返してきました。3月4日に出発式を行い、いよいよ組合員さん宅への配達が始まりました。主に真岡市と益子町を中心としたエリアで1週間に230カ所へ配達しています。走行距離は、1日平均約70km。充電は配達終了後、芳賀センターに戻って夜間に行っています。

組合員さんのお宅へ何うと、エンジン音の静かさに皆さん驚かれるとのこと。コンセプトを伝えるボディのデザインも「可愛らしい」と好評です。環境に配慮した宅配事業の実現に向けて、とちぎコープは、引き続き実証実験の取り組みを進めていきます。地域の皆さんには温かく見守っていただければ幸いです。